

議 事 録

会議の名称	第3回三田市総合計画審議会（第3部会）
開催の日時	令和3年7月27日（火）18時30分～20時50分
開催の場所	三田市役所 本庁舎6階委員会室
出席した委員の氏名	清水部会長、川原委員、小谷委員、吉田委員、福田委員、小林委員、小川委員、坂場委員、藤田委員
欠席した委員の氏名	和田副部会長、武田委員
出席した庶務職員の職及び氏名	田中市長公室長、太田政策課長、山谷総合計画策定担当課長、靱井政策課係長、森谷政策課主任 【所管部署】 江田地域整備室長、川田環境共生室長、山添上下水道部次長、島田道路河川課長、青野公園みどり課長、辻下環境創造課長、田中里山のまちづくり課長、赤井クリーンセンター所長、横溝文化スポーツ課長、片山上水道課長、白井下水道課長、門脇浄水施設課長、三谷下水道副課長、西中統括作業長、小谷上水道課係長
傍聴者の人数	2名
議 題	1 水の保全 2 里山・自然の保全 3 持続可能な環境づくり
会議の概要（結論）	・「水の保全」、「里山・自然の保全」、「持続可能な環境づくり」について意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	次第 資料12 第5次総合計画基本計画素案作成シート 「水の保全」、「里山・自然の保全」、「持続可能な環境づくり」
連絡先	市長公室政策課 電話（079）559 - 5038 内線（2211）

1 開会

＜森谷政策課主任の司会により開会、配付資料の確認等＞

2 議事

(1) 水の保全（上下水道部）

＜山添上下水道部次長から資料に基づき説明＞

＜意見交換＞

委員：三田市の水道料金の現状を確認したい。水道料金が低いのであれば、工場誘致等の際に、そのことをPRすれば良いのではないかと。

事務局：水道料金は、兵庫県下の27事業体の中で、本市は14番目であり、中間に位置する。

委員：水道事業は、民間に委託するのではなく、行政が適正な料金で持続可能な維持管理を進め

て欲しい。民間経営の場合、価格競争に注力することになり、サービスの質が下がることが懸念される。

委員：都会から三田へ引っ越してきた際に、三田の水がおいしいと感じた。

ネット情報だが、兵庫県では水道水を飲み水にしている自治体が少ない状況だった。安全性を保ちながら、収益を確保するのは難しいと思うが、水道水利用の需要を掘り起こすという観点も必要ではないか。都市部の人間からすると三田の水はおいしい。自然とのマッチングを三田は大きなテーマとして掲げているので、何か模索できないか。10年後を考えた際に、水道料金についても現状どおりの価格維持を目指していければ良いのではないか。

委員：上水道の供給範囲は、市内全域か。以前ニュースで、地下水を飲み水として使用している地域があり、管理会社の倒産により水が供給されない事態となったことが報道されていた。施設の維持管理は、民間であると持続が難しいと思う。引き続き上水道を守って欲しい。

事務局：ニュータウン区域は100%供給エリアであるが、市北部などの農村地域の中には、供給エリアから外れているところがある。ミニ開発地などでは井戸水を飲み水として使用されているケースもある。

委員：上水道は収支バランスが良いと聞いた。下水道は維持管理に多大な費用がかかると思う。地域によっては浄化槽を利用していると聞いたが、下水道の持続可能性についてどのように考えているか。

事務局：下水道が未整備の地域があることは認識している。当該地については、現在、担当課がアドバイザーとなり、「まちづくり会」を設立し、道路等のインフラ整備に向け、検討しているところである。

委員：素案策定シート中、「20年後に避けたい三田の状況」D欄について、水道料金の値上げについて書かれている。学生の頃、浄水場を見学して飲み水の価値を理解した。水道水を作る手間と費用がかかることについて理解でき、住民へ周知することが大切だと感じる。同様にE欄についてだが、私の地元では浸水被害を受けたことで、まちのブランドが低下した。予期できない被害には気を付けた方が良い。

委員：水道の民営化について、違和感を覚える。民間はゼロベースの考え方で改善を見込むが、一方で収益重視に偏り管理が適正に行えるかが不安である。今後の維持に向けては、職員数の確保が必要になると思うが、消防のように広域連携で人的なコストを抑えることができるのではないか。

委員：広域も1つの手だが、生活インフラについては公的機関がまとめてする方が良いと思っ
ている。コストを意識しつつ、持続可能なカタチで、行政が水を守って欲しい。

委員：素案策定シートには災害対策について盛り込まれているが、昨今、豪雨被害が各地で多発しており、市として今後どのように対策を講じていくのか。何か基準はあるか。

事務局：本市の雨水計画については、基準に基づき整備をしている。しかし、近年、基準を超えるゲリラ豪雨等が発生し、浸水等の災害が発生している。災害等が発生した箇所については、浸水対策工事を実施し対策を講じているが、突然のゲリラ豪雨等で浸水が想定できない場合は、パトロールや市民等からの通報を受け、その都度、土嚢設置など現場でできる被害対策を行っている。

委員：今後の対応も含めて、河川、田畑、ため池等の被害が発生する災害も考えられるので、そ

ういった対応も含めてシートに落とし込んで欲しい。

委員：里の保全、田畑の維持や役割も含め農業には水が必要で、この施策でも水の保全に向けた里の役割を記載いただきたいと思います。

委員：マンホールトイレとは何か。

事務局：地中の下水道管から地面に対し管を立ち上げ、その立ち上げた管口に「便座付きの簡易トイレ」を設置してテントで囲んだものである。避難所の環境改善を図るため、整備を進めている。

委員：他自治体でもスマートメーターを導入しているが、導入までかなりの時間を要するので、10年後に向けて早期に取り組んではどうか。

委員：農地用水について、特定地域への取水施設であるゴム堰が壊れている状況である。持続可能な農地用水の確保について、ゴム堰への補修に限り補助金の投入ができないと認識している。ゴム堰以外に自然災害の影響によって農地用水の確保が難しくなった場合は、市からの支援も検討頂きたい。

部会長：意見を整理すると概ね次のとおり。

- ①市民に三田の水の良さを理解してもらえよう、市民や企業に向けて、水の価格帯や潤沢さ等についての発信力を高めることが重要である。
- ②水は重要なインフラであることから、民間に委託することなく公営を維持するとともに、適正な維持管理に努め、持続可能な状態を目指して欲しい。
- ③近年多発する豪雨災害への備えを含め、上水道だけではなく、里の保全や田畑の維持など農業用水も含めた、水の維持管理について持続可能性を目指す必要がある。
- ④スマートメーターについては、導入に相当の時間を要することから、スピード感を持って進めてはどうか。

(2) 里山・自然の保全

＜川田環境共生室長から資料に基づき説明＞

＜意見交換＞

委員：三田らしいテーマだと思う。学習プログラムを行うために利用できる施設があり、三田で育ったことで自然に興味を持つ人も多いと思う。三田らしいテーマなので、三田ならではの取り組みが必要ではないか。また、グリーンセイバーの資格取得ができるなど、里山や自然の保存に向けて楽しく学んでいくことも大事と思う。

委員：里山の定義はどうなっているのか。

事務局：一般的には、人の手が入り、管理している山を里山と呼んでいる。市では河川、公園なども含めている。

委員：野外焼却については、禁止されていると思うがどう考えているのか。

事務局：原則禁止だが、周辺環境に著しく影響を及ぼさない範囲で、農業上やむを得ない場合など例外はある。実態としては、個別具体的に判断している。

委員：野焼きから山火事になっているのは、高齢者が管理をしていて人手が少ないからではないか。ルールを設定をした方が、みんなに対応してもらえないのではないか。

部会長：里山の定義について説明を加えた方が良いのではないかと。野外焼却については、原則禁止なので、敢えて記載する必要はないかと思う。

委員：野外焼却は燃やすことだけが目的ではない。土を肥やす、虫を避けるといった目的もあり、文化になっていると思う。野外焼却をする際は、消防団が待機している。

三田市は、花と水と緑のまちと言われてきたが、環境への補助金については、補助メニューが少なく金額も少ない。積極的な広報を通じ、補助金を広く活用してもらうことで、支援内容も充実していくと思う。また、環境への配慮につながる補助メニューも充実させて欲しい。

委員：素案策定シート中、「4 行政の取り組み」④欄「里山環境と生活環境の調和を図り、住民相互理解のための啓発等の推進」について、「周辺環境に配慮した取り組み」に関する記載については検討いただきたい。農業者は既得権を主張する傾向があると思うが、市民の相互理解を深めるために、啓発などの支援を行っていくことが重要ではないか。

委員：「5 成果指標」④に、「公害等に関する苦情件数」と書かれているが、現状として多い苦情は何か。

事務局：苦情内容について、悪臭が66件と最も多くなっている。その中に野外焼却も含まれている。

委員：成果指標⑥にあるポケットパークとはどういうものか。

事務局：街区の一部に植栽やベンチを設置している小さな公園のことで、市内に50箇所ほどある。

委員：三田は緑が多いことから、今後維持管理が費用面でも心配になってくると思うが、今後どのように検討していくのか。

事務局：樹木の管理費だけでなく、交差点の見通し、根上がり等道路舗装にも影響が出てきている。今後は、植栽管理計画で検討していきたい。

委員：大きな公園の整備は仕方ないと思うが、住民にとって身近な小さい公園については、補助金を出して、住民に整備してもらってはどうか。住民による管理の視点を入れた計画として欲しい。

事務局：これからは市民とともに進めていきたいと思っており、有償ボランティアや資機材の提供など具体的な進め方についても植栽管理計画で検討していきたい。

委員：住民から直接意見を聴取する機会があれば良いと思う。

委員：住民が公園を維持管理するとして、主に高齢者の方が維持管理を進めていくことも想定できるが、その場合、学生や若い人たちも使いやすい公園にしていく等の工夫が必要ではないか。

部会長：意見を整理すると概ね次のとおり。

- ①本施策は三田らしいテーマであるため、今後の三田市の具体的な里山の取り組みについて打ち出していても良いのではないか。
- ②持続可能な里山の取り組みに力を入れていくということから、里山の定義を明確化するとともに、里山文化を市民同士で共有し、相互理解を深めることが大切である。
- ③市内に多数ある学習施設をさらに活用し、相互に連携を図るべきではないか。市民の環境への取り組みに対する具体的支援を行うことで、環境理解を促してはどうか。
- ④今後検討する植栽管理計画は、住民による管理の視点など住民から直接意見を聴取する機会を設けて欲しい。その観点からも、「4 市民の取り組み」について、植栽の維持管理に協力するというだけでなく、市民に主体的に動いていただくようなニュアンスの記

載を検討してはどうか。

- ⑤「4 行政の取り組み」④欄「里山環境と生活環境の調和を図り、住民相互理解のための啓発等の推進」について、「周辺環境に配慮した取り組み」に関する記載は検討頂きたい。市民の相互理解を深めるために、啓発等の支援を行っていくことが重要ではないか。

(3) 持続可能な環境づくり

＜川田環境共生室長から資料に基づき説明＞

＜意見交換＞

委員：このテーマは10年後、核になっていくのではないかと思う。循環型システムは是非とも構築頂きたい。カーボンニュートラルに取り組むのであれば、太陽光は再生可能エネルギーとして外せないと思うので、公的なバックアップと啓発も含めて検討が必要ではないか。ただし、三田市は丘陵地が多く平地が少ないので、設置について難しいところがあると思う。里山保全とのバランスも配慮が必要かと思う。

委員：クールチョイス運動とは何か。カタカナ表記が多い。

事務局：2030年に温室効果ガスを26%減らすことを目的に、国が平成27年度に立ち上げた取り組みである。温室効果ガスを削減するための賢い選択と言っており、具体的にはクールビズや近隣の移動に公共交通機関を使うといった取り組みを指している。三田市でも平成29年にクールチョイス宣言をしており、今後事業展開を考えている。

委員：新ごみ処理施設について、自然との共生を謳う三田市では、是非とも循環型システムを構築して欲しい。

また、太陽光発電は今後外せない重要なキーワードである。一方で、三田市は他施策で「里山・自然の保全」を掲げている。太陽光発電を普及させるには、三田は丘陵地が多いため、山を削り取る工程などが出てきて、災害等の被害が懸念されるが、里山・自然の保全とのバランスを取っていただきたい。

委員：持続可能な環境づくりとしてSDGsという言葉が出てきているが、子どもたちは全く知らない。テレビ番組でSDGsについて取り上げられたりしているが、子どものときから、ごみの減量や自然の大切さなど、環境についてよく知ってもらうことが重要だと思うので、環境教育に力を入れて欲しい。自らが取得するアロマの資格など、環境を学ぶきっかけになる民間の取り組みは多数ある。

委員：カーボンニュートラルについて、具体的な方策が見えない。2050年を目指して、我々は具体的にどうすればよいのか、きちんとした道筋を立てて欲しい。

事務局：現時点では具体的な計画は作っていない。今年度中に調査などから着手する予定で、計画策定に向け進めていく。成果指標についても今から調査のうえ、基準を決める。

委員：コストと費用対効果の市民へのアナウンスも重要だと思う。

委員：クールチョイス運動の賛同者数について、どのように把握しているか。

事務局：環境省のシステムに賛同者が登録を行い、その登録者数から把握している。

委員：これから賛同意思の数を集計するというので、今は取り組みのスタート地点である。三田市のクールチョイス運動に何かポイント制度を設けるなど、市民がより身近なものと感じ、取り組みやすいような仕掛けがあれば良いと思う。

部会長：楽しんで取り組むことができるような工夫は必要かと思う。

委員：新ごみ処理施設について、どのようなシンボリックな施設を検討しているか。

事務局：新ごみ処理施設の整備について、基本計画を現在策定中である。ごみ処理は市民生活のライフラインであるため安定的に稼働させることに加え、ごみ焼却から得るエネルギーを地産地消するという観点をもって取り組んでいる。次の施設は、令和10年度に稼働させたいと考えており、市民に親しみをもってもらえる施設にしていきたい。

委員：子どもたちの施設見学の際には、体験型の施設であると理解しやすく、子どもたちからごみの減量を意識するのではないかな。

委員：SDGsを推奨する中で、域内循環が今後のテーマになってくるかと思う。一般ごみは焼却場で処理できるが、燃やせないごみなど処理できないごみはどうしていくのか。一般ごみ以外のごみも地域内で処理できるような取り組みが環境づくりの一端を担うのではないかと考えるので、視野に入れてもよいのではないかな。

部会長：意見を整理すると概ね次のとおり。

- ①2050年カーボンニュートラルの推進を見据えた場合、逆算して何をどのように取り組んでいくのか。カーボンニュートラル推進の記載について、もう少し具体的に検討をしてはどうか。
- ②太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを導入する際には、自然との共生の観点、景観への配慮や災害等の発生の懸念に留意すべきである。
- ③成果指標については今後の調査により具体的な数値を示すようだが、目指す方向性が見えにくいのでしっかり精査して欲しい。
- ④新ごみ処理施設は、子どもたちからごみの減量を意識するよう、環境学習の体験型施設も視野に入れて検討して欲しい。
- ⑤環境づくりの一端を担うと思われるので、SDGs推進の観点も視野に入れて基本計画の内容を検討して欲しい。
- ⑥全般的な意見として、カタカナ表記等については、市民に平易で分かりやすい表現を使用されたい。

3 閉会

- ・総合戦略部会

8月18日（水）18：30～20：30

- ・第4回全体会

9月29日（水）18：30～20：30